

LIFE TIMES



平成28年5月6日(金)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 古田 泰幸
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第123号

[目次]

1. 古田新部長就任のご挨拶
2. 「MCLC APTSIS 20」スタート
3. 当社ホームページ一部リニューアル
4. 改正物流総合効率化法案 閣議決定について(国土交通省)
5. 2015年度「物流効率化」提案実績
6. 場所紹介～西日本エリア営業部中京支店(愛知県半田市)～
7. ダイバーシティ現場交流会開催について
8. 物流環境改善セミナー 参加レポート



1. 古田新部長就任のご挨拶

薫風の候、皆さま益々御健勝のこととお慶び申し上げます。この4月に3年振りにソリューション営業部に異動し、部長に就任しました古田です。

今年は、3月北海道新幹線[新青森-新函館北斗]開業を皮切りに、今月末の伊勢志摩サミット、8月リオ五輪・パラリンピック、11月～アメリカ大統領選挙と内外ともに賑やかで、また大きな「変化」を予感させるイベントが続きます。

一方、物流市場は景気が今一つ足踏み状態であることも加え、厳しい環境下にあります。特に東日本大震災以降、荷主の意向は一社購買から複数社購買にシフトしており、大きな受注には繋がりにくい状況です。更に、運転手や物流人材不足等の問題から、少量多頻度納入を背景とした物流コストの上昇圧力増大、地球環境問題への対応、グローバル化進展による国際情勢の負の影響増大(景気変動・地理的リスク)に至るまで課題は多く、且つ連鎖しており、もはや「誰もが想定できない世界」なのかも知れません。

私は5年前の東日本大震災直後の本紙「編集後記」に現地を直接見たことを踏まえ、次のように綴りました。「今後もいつ、どこで、何が起こるか分かりませんが、あらゆる可能性を想定しながら物流会社として社会・地域に対して果たすべき役割と責任を追及していかなければならないと思います。これは一物流会社だけで出来ることではありません。(後略)」今、様々な壁を越えた連携の必要性を改めて強く感じます。近年、物流業界でもM&Aや業務提携の形で競争力を高め、多様化する顧客のニーズに対応していくことがトレンドとなっている模様です。

当社では、この4月からスタートした5か年の中期経営計画「MCLC APTSIS 20」に於いて、【“KAITEKI 物流”を創造することで化学業界全体に貢献し、あらゆるステークホルダーから信頼される化学品物流会社日本一を目指す】と宣言しております。当部がその先陣を切るつもりでメンバーと一体となり、関係先の皆様とコミュニケーションをよくとり目標達成に向け日々精進して参りますので、宜しく願いいたします。



2. 「MCLC APTSYS 20」スタート

当社は、中期経営計画“MCLC APTSYS 15”で、重点施策「3つのG」、すなわち「Gemba-ryoku（現場力）」「Group」「Global」に沿って、様々な取り組みをおこなってまいりましたが、本年度4月よりこれらの活動をベースにした次の新中期計画“MCLC APTSYS 20”（2016年4月～2021年3月）を新たにスタートさせました。

“MCLC APTSYS 20”では、「KAITEKI物流を創造」することで化学業界全体に貢献し、あらゆるステークホルダーから「信頼される化学品物流会社日本一」を2020年度の目指す姿としており、これまでの「3つのG」を基盤として、新たに①三菱ケミカルホールディングスグループ事業への貢献、②物流環境変化への対応③物流基盤の整備を重点活動項目としています。

具体的には、物流品質の更なる向上や効率化提案に加えて、荷主の事業動向に沿った効率化推進、サプライチェーン最適化の実現、海外事業への支援を積極的におこなっていきます。一方、物流業界に目を向けると、少量多品種・多業種にわたる商品を一般消費者に届ける物流業務は盛況となっている反面、長距離ドライバーや船員の不足、危険物や重量物、長尺物等の敬遠が顕在化しています。このような環境変化への対応として当社は、物流力の確保・強化（JR専用列車、倉庫、ISOコンテナ、ケミカル船団の増強）、物流環境改善（共同物流、マルチワークステーション）等、自社の物流設備を強化することで、安全で安定した物流を提供し、社会における安全意識の高まり、危険物・毒劇物・高圧ガス等の取り扱いにおける更なる管理強化等の要請にも応えてまいります。

3. 当社ホームページ一部リニューアル

MCLC 🔍 検索

ダイヤ資材社との合併から1年、待ちに待ったホームページの統合も実現しました。メインビジュアルでの「物流＋包装資材の効果」の表示、事業案内のアイコンのカラーセル化を中心に、もっと「気づいていただける」「知っていただける」をコンセプトに改修しました。

どうぞ皆さま是非一度（もちろん何度でも！）ご訪問ください。

*旧包装資材サイト：<http://www.diapm.co.jp/>への長年のご愛顧に感謝致します。



4. 改正物流総合効率化法案 閣議決定について(国土交通省)

2016年2月、流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律の一部を改正する法律案、いわゆる「改正物流総合効率化法案」が閣議決定され、今国会に提出されました。今回の改正は、人手不足への対応を図るため、効率化支援方策を「施設整備」によるものから「連携」によるものへと転換し、支援の裾野も広げる事がポイントとされています。

具体的には、下記3事業において、2以上の者の連携を前提として、認定が得られた場合に税制上の特例や補助が受けられる仕組みとなる見込みです。これら事業の推進により、経済活動及び国民生活を支える流通業務の生産性向上を図るとされています。

また、物流業の労働力確保に支障が生じつつある事を明示した点も注目されます。昨今言われているドライバー不足等が一過性のものでなく、抜本的な対策が必要であるとの認識を示したものであり、今後の政策でも基調になるものと考えられます。

①モーダルシフト推進事業
⇒より少ない人員での大量輸送を実現

②地域内配送共同化事業
⇒混載・帰り荷確保等によりトラック積載率を向上

③輸送網集約事業
⇒トラック待機時間を改善

省力化された
効率的な物流

トラックドライバー
不足の解消

CO₂排出量の
削減

国土省資料より、一部改編

5. 2015年度「物流効率化」提案実績

当社ソリューション営業部では、2015年度は主だったものだけで7件の「物流効率化」提案を実施しました。昨年度の特徴は一昨年までに比べ、「輸送」を調査対象とする割合が高く、お客様からも高い評価を頂く事が出来ました。

今日、乗務員不足が社会的な問題となっており、輸送費の高騰が表面化しつつある中、視点を変えて効率化提案した結果がお客様の評価に繋がりました。

また、全体の傾向としては、一昨年度に続き新規のお客様の検討案件が多く、依然として物流効率化への高い関心と、必要としているお客様の層の厚さを再認識いたしました。

そして、効率化を提案する事も大切ですが、提案した内容を実行し効果を出すためには、管理者と実務者が情報の共有を行い、同じ目標を持つことが大切と考えます。

当社もお客様と同じ目標を共有し、それを達成できるようご協力してまいりますので、今後とも当社を宜しく願ひ申し上げます。

2015年度の主な「物流効率化」提案事例

提案先	物流規模		分野				検討人役	検討期間
	工場	倉庫	輸送	構内	仕組	在庫		
A化学メーカー	1	11	○				2人	6ヶ月
B化学メーカー	1	2			○		1人	1ヶ月
C化学メーカー	1	1	○				1人	4ヶ月
D物流会社	2		○				1人	3か月
E化学メーカー	1	3	○				2人	3か月
F加工メーカー	1	2	○				1人	3か月
G加工メーカー		1		○			1人	1ヶ月

6. 場所紹介 ～西日本エリア営業部中京支店(愛知県半田市)の巻～

当社中京支店中部ロジスティクスセンターの荷主であるA社駐在所は、2009年から業務をスタートし、現在1名でA社製品の輸送管理に日々奮闘しています。駐在所のある愛知県半田市は、名古屋市中心部より約40Km南に位置し、1937年半田町・亀崎町・成岩町が合併して誕生しました。

半田市には、勇壮な山車の祭り、お酒や調味料の醸造蔵群、ごんぎつねの作者である新美南吉の生家及び記念館・戦跡を未だに残す半田赤レンガ建物等があります。中でも300年以上続く山車祭りは、その伝統や文化が現在まで継承され、「亀崎潮干祭の山車行事」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。5年に一度開催される各地区の山車31台が勢揃いする「はんだ山車まつり」は、50万人もの観客が訪れます。

また、国の登録有形文化財として登録されている半田赤レンガ建物は、戦前、丸三麦酒(株)により麦酒生産の為に建設されました。そこで作られた「加武登麦酒(カブトビール)」は、1900年のパリ万国博覧会に出品し金牌を獲得しました。第二次世界大戦中には航空機メーカーの倉庫となり、戦後は別メーカーの倉庫として使用されました。その後、1996年3月に半田市に譲渡され、2015年7月には、観光施設としてオープンし、復刻した加武登麦酒を味わうことが出来るようになりました。

そんな半田市ですが、名古屋から電車で30分と近く、狭いエリアに見どころが凝縮され歴史溢れる街ですので、お近くにお寄りの際は是非お立ち寄りください。



7. ダイバーシティ現場交流会開催について

当社では2014年の人事部ダイバーシティ推進Gr発足以来、女性社員を対象にした研修をいくつか実施して参りました。その中で「現場を見たことがない、現場を見てみたい」という声が多かったことから、ダイバーシティ推進Grで現場交流会を企画致しました。作業現場を実際に見たことがない方を優先に本社にて参加希望者を募り、2016年3月16日に当社川崎油槽所にて開催致しました。(女性限定にしたわけではありませんが、参加者は女性6名となりました。)

当日は、川崎油槽所の女性社員が、概況説明～現場の案内を全て実施しました。説明、案内をすること自体初めての経験ということでしたが、女性の視点からとても丁寧な説明になっており、参加者も大変熱心に聞いておりました。参加者の多くは、初めての現場見学ということもあり、実際にタンクの上に登るなど目で見て体験することで、作業の大変さや、危険予知の重要性を理解できたのではないかと思います。

引き続き、当社では、男女問わず従業員一人ひとりが成長し、それぞれの能力が最大限に発揮されるような様々な取り組みを行っていきたくと考えております。



タンクの上に登っている様子

8. 物流環境改善セミナー 参加レポート

2016年2月17日、厚生労働省委託事業として㈱日通総合研究所が主催する「荷主企業と運送事業者の協力による安定的な輸送力確保に向けた物流環境改善セミナー」へ参加しました。

セミナー第1部では大手化学品メーカーにおける物流効率化への取り組みについて紹介が行われ、第2部では、トラック運転者の労働基準等を定めた各種法令についての説明と、それら法令の順守を目的とした労働時間短縮への具体的取組例(荷主企業と運送事業者の協力による事例)について紹介が行われました。



この大手化学品メーカーでは、2014年4月の消費増税前に車両不足に陥った事をきっかけに、「物流会社から選ばれる荷主」を目指して様々な取り組みを行ってきたそうです。しかし、メーカーの物流部門と物流会社だけでの取り組みは既に尽くされた印象で、現在は工場(製造部門)や顧客(納入先)の協力が必要なテーマやコストアップを伴う取り組みも実施しているとの話を聞き、輸送力確保に対する危機感がますます高まっていると感じました。

編集後記

ソリューション営業部 佐藤

今春は、例年よりも早く桜の開花宣言がありました。開花後数日間、寒の戻りがあったせいか、4月に入っても殆ど散ることが無く、何とか入学式までもち、桜吹雪の中を新入生が歩く姿が見受けられました。私たちも新年度を迎え、新たな気持ちで過ごす毎日です。

さて、年明け早々軽井沢で痛ましい事故が発生したり、また、3月にも高速道路で重大事故が発生しました。何れも乗務員の運行管理に問題があったようです。このような問題を発生させない為にも、荷主・物流会社が一体となり、効率的かつ安定的な輸送形態を築いていくことの重要性を念頭に置き、今後も活動していきたいと思っております。